



10 お地蔵さんを巡って、酒蔵へ

(西別所駅～星川駅探索マップ)

製作：北勢線の魅力を探る会 2015年10月

連絡先：代表近藤 TEL 080-3073-3313

西別所の濃州道沿いには3つの地蔵堂がある。桑部方面への分かれ道、三叉路に、小林理容の仏壇に安置されていた掌に載るほどに小さい地蔵様を祀った小祠。西別所川畔の右側の地蔵堂。蓮花寺川に架かる城下橋の手前の地蔵堂。今回のコースは各所で10箇所を超える地蔵堂に出会えます。

①稗田前駅跡

昭和13年5月に開設されたが、昭和19年7月、電力事情などにより廃止された。

②薬師堂

稗田の地蔵堂を曲がっていくと、薬師堂と呼ばれる宝増山薬王寺は、もと天台宗、のち日蓮宗に改宗し、桑名藩の庇護を受けていた。明治初めに廃寺になったが、同6年(1873)に再興され、現在は地区の人たちによって維持されている。境内には松本清張氏の発案で建立された「史蹟矢部駿河守埋葬之地」の石碑がある。矢部駿河守定謙は江戸南町奉行を勤めていたが、冤罪を受け、桑名藩に身柄を預けられた。座敷牢で断食し、天保13年(1842)7月に餓死、この薬師堂に葬られた。

③桑部橋

員弁川を渡る桑部橋は、はじめ明治13年(1880)に架けられ、現在の橋は昭和57年に架け替えられたもの。

④桑部城主大儀須家

桑部橋南詰めに城山と呼ばれる丘陵地があって、戦国時代の平山城、しかし、現在は採土、整地されて宅地化され、跡形もなくなる。なお、桑部城主のご子孫大儀須家は現在も東桑部で農業を営んでいる。

⑤教専寺

17世紀末、寂如上人から寺号を許可された浄土真宗本願寺派の寺で、現在のご住職は13世。秘蔵の寺号に関わる下間式部卿から送られた天和2年(1682)付の手紙が残る。この文書の宛て書きには「勢州員刀(辺?)郡桑部村、教専寺／教俊」とあり、この頃の桑部村が桑名郡ではなく、員弁郡であった。

⑥善徳寺

真宗本願寺派。大儀須家の墓がある。

桑部は東・中・西に分かれ、さらに西部は篠原と呼ばれる。各区に地蔵堂があって8月23・24日は子供の行事、地蔵盆が催され、教専寺と善徳寺のご住職が4つのお堂をお参りしている。

⑦長谷神社

「延喜式」神名帳の桑名郡15座の一つ。もとは谷奥長谷(ながたん)にあったが洪水に遭って社殿が流失し、のち現在地に移された。『式内社調査報告』には、この地に居住した中臣氏の支族が、祖神の建御雷男神を鹿島神宮から勧請して祀ったもので、「桑部という地名は、或いは桑名首の部民の居住地であるところから名付けられたのではあるまいか。(吉川良隆)」とある。

⑧能部神社

創立不詳。明治時代に桑部長谷神社に合祀され、戦後分祀された。

⑨後藤酒造場

現在、桑名では唯一の蔵元。大正6年(1917)の創業で現在の代表者は4代目です。同社は北勢線とのコラボ企画で作られた「北勢線応援酒」を発売。「北勢線応援酒」は七和嘉例川で栽培された酒米を使用して醸造した純米酒で、ラベルに北勢線の車体を描いた300mlの小瓶で販売されている。毎年2月に近鉄の酒蔵巡りで酒蔵見学ができる。

友村の現在閉館している萬古瞭然館の前に2つの地蔵堂がある。

⑩靱尾神社

友は昔は靱尾といわれ、旧跡靱尾森に由来する。古くは牛頭天王社といった靱尾神社は明治43年(1910)中上の多奈閑神社に合祀されたが、昭和3年(1928)に神殿を建てて分祀、復旧した。境内の幟立ては往年の長距離のランナー瀬古利彦氏の寄贈。